

目 標

我々、いわき経済同友会会員は、企業経営者の異業種交流活動を通して、三つの目的を達成し、仲間の連帯を深め、地域経済の発展と活性化をはかり、夢と希望に満ちあふれた地域社会づくりをめざします。

SEA

いわき経済同友会

IWAKI

1月号/2008年1月1日発行

3つの目的

- 1つ よい社会をつくろう
- 2つ よい経営者になろう
- 3つ よい経営環境をつくろう

子 謹 賀 新 年

2008
本年も宜しくお願い申し上げます。 平成20年1月



代表幹事、副代表幹事の皆さん

年 頭 所 感

いわき経済同友会 代表幹事

里 見 潤

平成20年の新春 あけましておめでとうございます。

皆様には、輝かしい新春を健やかに迎えのことに心よりお慶び申し上げます。

昨年は福田内閣の発足やサブプライムローン問題、原油価格高騰、偽装問題など「偽」で表されるような一年間ではありましたが、今年は干支の最初、子年であります。物事をスタートする上で区切りの良い年ではないでしょうか。又本年はオリンピックイヤーでもあり、隣国の北京で行われることは、何かにつけ励みになる年になれば良いと期待しております。

我が経済同友会も22年目を迎え、昨年まで行ってきた異業種交流の中にビジネスモデルを見つけ出すテーマの下おこなってきた活動を更に深め、戦略性のある経営者の資質向上の場として一人々が強くなり、経営環境が変化しても元気に生き残る為に力をつけ、力強い経営者になれる会としていきたいです。

地域格差をはじめ、あらゆる所で格差社会は激しさを増して行くと考えられます。我々いわき経済同友会会員は会社や地域のリーダーとして、創立時の原点であるチャレンジ精神、ハングリー精神を持って、明るく元気にがんばりましょう。

12月通常例会・第2回臨時総会開催・講演会開催

12月13日 建設会館にて12月例会が開催されました。例会後、第2回臨時総会に於いて平成20年度役員(案)が原案通り承認されました。(4ページに掲載)

さて本年度2回目の講演となりました今回の講師は、東北ジャイロ流通研究所所長 小柳剛照氏に「まちづくりのヒント」をテーマとしてお願い致しました。

里見代表幹事の挨拶、寺主副代表幹事の講師紹介が行われ講演が始まりました。

要旨

「まちづくりのヒント」

東北ジャイロ流通研究所所長 小柳剛照氏



講演の前に、疲れを取る目的で「ゴリラの鼻くそ」という本物の甘納豆を配られました。

まず、まちづくりの現状について、まちづくりは建物を造ったから活性化されるものではないということで、以下の5つの気を付ける点を話されました。「まちづくり発想法」

まちづくりの“常識”にとらわれるな

「何々ゾーン」といったゾーニングで地域を区切るやり方が、あちこちで行われてきました。非常に美しい町並みに見えるが、使いにくくなり、ビジネス街は人が歩かなくなってしまう。こういったまちづくりで良いのかと疑問を呈したジェイコブスという女性が「ジェイコブスの原則」を作りました。原則の一つ目は、街は単一機能にしてはいけないという法則です。つまり、たくさんの用途があって良いというのが発想です。店の脇に事務所があり、裏に住宅があるといったのが昔のまちだったのです。一見ごちゃごちゃしているように見えるけれど、そのほうが便利でしょうというのが「ジェイコブスの原則」なのです。

今一番注目されているまちの、青森のコンパクトシティが良い例です。色々な機能が入ったアウガというビルは、下が商業施設で上が図書館です。その隣の高齢者対応のマンションは完売です。高齢者は除雪が大変だけれども、このマンションであれば除雪がいらないからです。中心市街地に人が戻ってきた一番の理由です。

青森のコンパクトシティは何を目標としているかですが、街を小さくまとめるのではなく、郊外へ広がりがお金がかかってきたものを省エネ型のまちづくりをして、まちの中心にエネルギーを向けようというのが発想です。

いわきでは、平ばかりが中心だという傾向が見られますが、平は平のやり方、小名浜は小名浜のやり方、常磐は常磐のやり方があり、色々なところでコンパクトなやり方が可能になってくると思います。

この街はどうやったら、暮らしやすく、働きやすくなるのかと発想してもらいたいです。

ナンバーワンを目指すな

NO.1を目指すたいのはわかるけれども、抜かれたら終わりなのです。1番は知っているが、2番目は知らないことが多いです。(富士山と北岳、県知事と副知事など)1番目は目立つが、2番目は目立たないのです。「うちだけなんですよ」というのが目立ちます。ナンバーワンになるのが必要です。

問題は“心の過疎”

心の過疎とは、「どうせこの街はだめなんだ」という気持ちです。心の過疎があると何事も上手くいかなくなります。元気がなくなるのです。こういったまちに行くとみんな元気がない顔をし、かならず「このまちは元気がなくて」と愚痴をこぼしています。この街に元気がないのではなく、あなた自身が元気になるのが必要だといいます。まずはじめは、空気で良いのです。何かやってみようというのが必要です。

悲観メガネをはずす

悲観メガネとは、「どうせこの街はだめなんだ」「うちの会社は小さいから何をやってもだめなんだ」という気持ちです。真っ赤のサングラスを掛ければ何事も赤く見えるが、はずせば良いところが見えてくるのです。

不利を逆手にとる発想法

温泉地に元気がないと言われていますが、その最たる所が福島飯坂温泉です。しかし、小さな温泉地でも黒川温泉や湯布院温泉といった元気の良い所もあります。湯布院温泉では、「何もなくてすみません」とは言いません。

「何もなくて素敵でしょう」と言っているのです。自然に接するのが、最大のおもてなしなのです。そこに気づくのが必要です。自分の街、会社にすばらしいものが埋もれているかを発掘してほしいです。何々だから駄目ではなく、何々だから良いんだという逆の発想が必要なのです。

いわきについては、ラトブの活用。活用する上で、一番即効性のあるのがイベント。ラトブを中心にし

て商店街との連携をし、まちぐるみで楽しめるようなイベントを行うのが非常に効果的だと思います。

具体的なイベントとして、会津若松のお宝探しスタンプラリーを紹介されました。スタンプラリーの目的は、売上げアップではありません。来店動機が重要なのです。

消費者は、一度も入ったことのないお店に入るのは怖いものです。当たりくじを出したお店には、お客様が喜んで商品を貰いに来て、親しくなり、今度はゆっくり買い物に来ようとなるのです。一度も来店しない消費者は沢山いるのです。売るチャンスがない店に、まずは消費者にお店に入ってもらおうというのがイベントの目的です。商品を提供したお店には、スタンプを押してもらったときと商品を貰うとき、消費者が2回来店してくれるのです。そこで親しくなり、再度来店をしてくれるのです。

続いて、以下の「企業力アップ、まちづくり推進のキーワード」について紹介されました。

■ 「自家焙煎珈琲の店 極久里」

(福島県飯舘村・自家焙煎珈琲)

カギは手間隙です。お客様が喜ぶ、価格よりも満足する手間隙(面倒)を絶対さばらないでください。

■ 「ゴリラの鼻くそ 岡伊三郎商店」

(島根県出雲市・お菓子)

カギはオンリーワンです。お菓子を売る場合、普通の発想はスーパーやコンビニに物を置くことですが、目立つために「ゴリラの鼻くそ」と、とんでもない名前をつけ、このお菓子が売れるのは動物園と考えました。名前はふざけているが、本物の甘納豆です。「これはうちだけなんですよ」という商品・サービスを造ることが有効です。

■ 「小川の庄」(長野県小川村・おやき製造)

カギは逆手流発想です。ここは、高齢化率が40%ですが、年寄りが多くて駄目なんだじゃなく、すばらしいと発想を変えました。伝統的なおやきを焼くお年寄りが沢山いることを有効に活用したのです。

また、目立つために評判の逆輸入(アメリカから日本へ)を考え、ジャパンエキスポに参加し評価を受けました。

■ 「オオカミの桃」(北海道鷹栖町・トマトジュース)

カギはネーミングと健康づくりです。特産品のトマト作りで健康になるまちを目指しました。トマトはラテン語でオオカミの桃と言います。これをネーミングしたのです。飲んでおいしく、名前が目立ったことで広がっていきました。何かやるときは、人は名前に惹かれるので、ネーミングにこだわって下さい。



■ 「ごっくん馬路村」(高知県馬路村・ゆず製品)

カギは遊び半分です。村で取れる農産物のゆずで、加工品にし高く売ろうことを考えました。特に入浴剤では、遊び心で表に書いてある文字を変えるだけで31種類の入浴剤を作りました。「ほっとする湯」などと言ったネーミングで、楽しさを売ったのです。真剣すぎることは疲れます。遊び心も必要なのです。

■ 「北斎と栗のまち」

(長野県小布施町・栗菓子、栗料理、観光)

カギは最高の品質です。リピーターを増やすために次の3つの活動を行ってきました。1つ目は、北斎縁の物を見せたということです。2つ目は「まちなみ修景」ということで古いまちなみを残しながら景色を修復し(栗の木などを植えた)、歩く楽しさを作ったのです。3つ目は、品質の良い栗を使った商品を作ったことです。民間(お菓子屋の3軒)が競い合いながら、助け合うという発想がまちを動かしていったのです。補助金を下さいではなく、頑張る物事を行い、逆に行政に認めさせることが必要だと思います。

■ 「伊賀の里モクモク手づくりファーム」

(三重県伊賀市・農業公園)

カギは連続ジャンプです。まずは、伊賀豚のソーセージが売れなかったことで発想を変え、お客様に手づくりソーセージを作らせました。次に、地元の新鮮な野菜を使いバーベキューを行い、ビール工房を造り、ミニ豚のショーを行ないました。それが、お客様に満足を与えました。ステップアップを行ってきたのです。一步一步進んできたのです。完成型を見るのではなく、過程をしっかりと見てください。ここは、観光を目的にしているのではなく、農業公園なのです。地元の人が喜ぶ所なのです。

まとめとして「活動活性化のヒント」を話されました。

★まちづくりのカギは、よそ者、若者、バカ者の力です。よそ者だから見えるものもあります。よそ者の一言が地域を変えた例もあります。その最

るものは、芭蕉の奥の細道です。山形の山寺は、芭蕉の俳句で観光地になっているのです。若者は、地位もお金もないから好きなことができるのです。最たるものは、脱落してなにもなくなって日本を変えた坂本龍馬です。まちづくりを成功したところには、まちづくりバカがいるのです。燃えるような情熱と人を引張っていく魅力があります。先進地視察では、このまちづくりバカに会ってください。

★物事を行うときに、足並みを揃えるのは難しいです。「やらなくても非難はしませんので、文句は言わないでください」とするのです。やりたい人だけ集

まってこの指とまれ方式でやるのがポイントです。

まちづくり会津のスタンプ会は、この方式で行いました。

★成功事例を探してまねをする場合が多いですが、成功した例はなかなかありません。他でやっていることを探すのではなく、やっていないことを考えるのが良いと思います。一匹目のドジョウを探すことです。

最後に、まちづくり、企業活性化に当てはまるとして「ガルシアの手紙」を紹介され講演を終了されました。

平成20年度 役員

○代表幹事／里見 潤

○副代表幹事／安島 浩(第1グループ会・情報委員会)
 " 寺主 君男(第2グループ会・会員増強交流委員会)
 " 松崎總一郎(第3グループ会・企画総務委員会)
 " 山口 弘之(第4グループ会・例会委員会)

○常任幹事／猪狩 正明 大平 栄司 大和田 宏 佐藤 敏雄

○グループ会

| | | | | | | |
|---------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 第1グループ会 | グループ長 | 小野 英典 | | | | |
| | 副グループ長 | 久保 勝美 | 小松ひと美 | 坂本 和久 | 原口 憲幸 | |
| 第2グループ会 | グループ長 | 小野 賢司 | | | | |
| | 副グループ長 | 竹下 康照 | 田子 英彦 | 前田 敦 | 若松佐代子 | |
| 第3グループ会 | グループ長 | 高崎 鉄也 | | | | |
| | 副グループ長 | 阿部 好則 | 佐藤 友計 | 高萩 和義 | 芳賀 潔 | 松尾 幸治 |
| 第4グループ会 | グループ長 | 田村慎太郎 | | | | |
| | 副グループ長 | 有賀 行秀 | 吉田 嘉徳 | 川上 正 | 高田 郁雄 | |

○委員会

| | | | | | | | | |
|---------|------|-------|------|------|-------|------|-------|------|
| 企画総務委員会 | 委員長 | 小沼郁互 | | | | | | |
| | 副委員長 | 阿部好則 | 高田郁雄 | 高萩和義 | 長谷川祐一 | 星 勝行 | 村岡真理子 | 村田裕之 |
| 情報委員会 | 委員長 | 清水雅昭 | | | | | | |
| | 副委員長 | 岩尾英子 | 川上 正 | 坂本和久 | 高萩和義 | 中田博道 | 前田 敦 | |
| 例会委員会 | 委員長 | 三室啓記 | | | | | | |
| | 副委員長 | 小松ひと美 | 佐藤光代 | 野口和彦 | 松尾幸治 | 松原 茂 | 山名二郎 | |
| 会員増強委員会 | 委員長 | 田村哲朗 | | | | | | |
| | 副委員長 | 有賀行秀 | 小野和夫 | 田子英彦 | 根本健一 | 吉田 泉 | 四ツ倉隆裕 | |

○研究会

起業研究会 委員長 武藤真一 副委員長 齊藤運弥 須藤新太郎 芳賀 潔

○監 事／櫛田 雪美 塚本 英雄

平成20年 1月グループ会のご案内

●環境グループ

1月22日(火) PM6:30～イタリアンコート

●福祉グループ

休 会

●情報グループ

1月23日(水) PM6:30～ 報徳苑

●観光グループ

1月～3月フロンパク(温泉博覧会について)

会員はどのグループ会にも出席できます。
グループ長にお申し込み

誕生月花プレゼント
11・12月誕生月の皆さんに
アンズリウムをプレゼント



左から齊藤運弥さん、小野賢司さん、阿部好則さん、吉田嘉徳さん、小野英典さん、須藤新太郎さん

11月グループ会報告

環境グループ会

■日 時 11月14日（水曜日）18:00～

■場 所 報徳苑

■内 容 (1) 幹事会の報告

グループ長より先日開かれた幹事会にて来年度の役員及び組織の一部見直しの件について、その骨子が決定した事の説明がありました。

(2) グループ会のまとめ

環境グループとして今年度の活動を総括し、来年3月末には「いわき市の学校給食残渣を利用したリサイクル事業」の検証結果を報告書にまとめるための準備作業を開始する事と致しました。

来年度は研究会として環境グループ会が存続する可能性も有りますが、ビジネスチャンスとしてはテーマを練り直す必要がある等の意見もあり次回の案件と致しました。



観光グループ会

■日 時 11月27日（火曜日）18:30～20:30

■場 所 建設会館 3階会議室

■議 題 いわきの観光資源を活かし、「いわき産食材を使ったお弁当」の開発について

■内 容 前回実施したアンケートの回収結果報告

「いわきの郷土料理」・秋刀魚のハンバーグ・サンマおから・スイートパンなど

「いわきの食材」・さんま・メヒカリ・うに・トマト・ねぎ・ほっき・ズワイガニなど

※お弁当を作るにあたり、衛生問題（食中毒）・産地表示（偽装）などについての責任問題をふまえ、グループ会で開発、発売してよいのか？とのご意見があり、検討中!!

開発を進めるのであれば、日持ちのする食材を選定する。また、購入機会を増やすために価格は1,000円以内のほうがよいのではないかと意見もでました。

※いわきの野菜・干物の詰め合わせ等もよいのではないかと意見もでました。



福祉グループ会

■日 時 11月28日（水曜日）18:30～20:30

■場 所 報徳苑

■内 容 こころ豊かで安心のできる福祉社会の実現と経済の発展を探る。

福祉グループ初回に立ち返り、自分の老後の問題点から到達目標を整理。

到達目標・分析・必要とされるニーズ・企画事業・事業の経費・事業の収益について、具体的に検討した。

我が家と同様の自由な暮らしの中で、切れ目の無い介護が受けられる新しい『ケア付き住宅』について勉強した。

高齢者専用賃貸住宅+小規模型介護=安心生活
高齢者・家族は「引越し先」や「終の住み家」として利用できる。特別養護老人ホームや介護付き有料老人ホームといった規制の多い従来の福祉施設とは一線を画すものとして、今後広く普及しそうである。同友会の様々の業態が協力して、事業化の可能性を探った。

現在余り使用されていない社員住宅などを改装して、高齢者専用住宅にし介護事業等の結び付きで充分事業として成立つと考えます。併せて、京都地区で実際の運営に成功事例もあり、今後研修も検討した。

情報グループ会

■日 時 11月28日（水曜日）18:30～20:30

■場 所 報徳苑

■内 容 10月度情報グループ会は、参加者が少ない為、小野、田村の2名にて情報交換を実施。

1. 新HPの策定内容について意見交換。
・変更点の確認（小野からの要望）
・HP委員会の早期実施による最終確認
2. 商工会議所主催エグゼクティブセミナーの内容から情報交換。
3. 次年度グループ会の運営について、情報交換の実施。

※①NTT川上さんは代行者とのことでキャンセル依頼する。

②安島さんはメール機能障害にて返信届かず。



■(社)いわき青年会議所と いわき経済同友会との懇談会開催

去る12月19日(水)、正月荘において、当会からは里見代表幹事をはじめとして7名、(社)いわき青年会議所からは根本理事長をはじめとして7名の参加にて懇談会が開催された。

冒頭、両会の活動内容が紹介され、ともに“いわき”の活性化にむけた取り組みを説明し、質疑応答を交えながら活発な情報交換がなされた。

また、両会にとっての共通の課題は、思いを共有する会員の拡大であり、その点で互いの協力関係を確認しあ

った。

当会から参加したメンバーは、青年会議所の諸君にとっては、先輩にあたる方々ばかりでもあり、終始、彼等が緊張気味なのは感じたが、その会話の端々に青年経済人としての先見性を垣間見ることが出来、当会の会員にとっても得ることの多い懇談会であった。(総務委員会)



於 パレス いわや 1月新年例会賀詞交歓会開催 平成20年1月9日(水)

1月幹事会 午後6時30分～午後6時45分

1月新年例会 午後6時45分～午後7時

賀詞交歓会 午後7時～午後8時30分

会費 5,000円



酒席を考慮し送迎バスを準備いたしますのでご利用下さい。酒気帯び運転は厳禁です。



皆さん宜しく!
新入会員紹介

お ぬ ま こ う せい
小沼幸誠

株式会社いわき中水 代表取締役社長
業 種 / 水産物卸売業
生年月日 / 昭和43年5月4日
会社所在地 〒971-8151
いわき市小名浜岡小名4丁目14-1

2月例会・新春特別公開講演会開催

「2008年 日本経済から見るいわき地域の経済」

講師 日本銀行福島支店 支店長 鉢村 健氏

日本経済の見通しから、福島県、いわき市の地域経済の活性化や企業の役割などについてご講演を頂きます。

平成20年 2月14日(木)

会費 1,000円

食 事 午後6時30分～
例 会 午後7時～
講 演 午後7時15分～
演 会 午後8時45分
会 了

於 ラトブ6F(いわき駅前)
いわき産業創造館 セミナー室

いわき経済同友会
ご入会のお薦め

いわき市内の企業経営者ならどなたでも入会できます

●会の趣旨に賛同される方は会員の推薦と所定の手続きによりどなたでも参加できます。
お問い合わせは下記へどうぞ。ご入会を心からお待ちしております。

発行 いわき経済同友会 里見 潤
編集 広報委員会 清水雅昭
委員 中田博道・前田 敦・田村慎太郎・山崎勇喜

事務局 〒970-8026 いわき市平字童子町4番地-18 いわき建設会館4F
TEL 0246-23-1200 FAX 0246-23-1211
http://www.seaiwaki.jp
E-mail:doyukai@triton.ocn.ne.jp